

令和３年度 第２回 三原市地域公共交通活性化協議会 会議概要

日 時：令和４年３月１６日（水） １０：００～１１：００

場 所：三原市役所 ３階 会議室

出席者：１７名（欠席５名）

内 容：

１．開催あいさつ

〔会長あいさつ〕

会 長：１月、２月でコロナウイルス感染が急速に拡大し、大学も授業がオンラインとなり学生が大学に来ることもなくなり、公共交通を利用する機会も減った。安定的に公共交通機関を利用することが難しい現状と捉えている。地域の足がしっかりと確保できるように検討したい。本日もよろしくお願いしたい。

２．報告事項

（１）令和３年度路線バスの運行状況の検証について

〔事務局から資料１により報告〕

〔質疑応答〕

会 長：大きく変動したところがある。例えば鞆鉄道の８－４は７１から３３に減っている。９－３の深線は１３から２２３.６と大きく減少している。芸陽バスの本郷線でも６－４は７９.１から４４.２と減っているところがある。特別な要因があるのかどうか気になった。

当然、コロナの中でテレワークの広がりもあり、ニューノーマルの中で公共交通利用者が減少する要因と、コロナでたまたま乗る人が少ないということを分けて考えなければならない。全体としては減ってきているが、昨年度よりも収支率が上がっている路線もあれば下がる路線もあるので、どのように全体として考えないといけないか、見解があればおしえていただきたい。

事務局：福地線や深線が大きく減少している要因、また芸陽バスが７９％から４４％に大きく収支率が下がっている要因について。収益の振り分けは、年間に１回の乗降調査によって全体の運賃を振り分けるということをバス会社ではやられている。大きく減少しているところもあるが、それが調査日にたまたま利用が少なかった、といった要因もある。特に利用の減少があって収支率が下がったということが全てあるわけではない。

今回の福地線や深線については調査日にたまたま利用が少なかったというということもあるかと思う。

芸陽バスさんから利用者の動向など、ご意見があればお願いしたい。

各委員：本郷線については一つの路線で考えた場合、ダイヤ改正等で行き先を調整したりすることでダイヤ系統をいじることがある。今回の６－４が減っているが、６－７・６－８のように随分増えているところもある。トータルでは減っているが、系統毎ではダイヤ改正で運行する時間で若干前後したことが考えられる。

河内甲山線について。こちらは昨年が14.7で今年が21.6。収益も420万円から560万円ということで増えているように思われるであろうが、これは中国バスの高速バスがコロナの影響で運休し、河内駅へJRを利用するため増えたのではと考えている。

三原市だけでなく、全体的なことではコロナの影響で年間のトータルはコロナ前の8割くらいで推移している。今後それが戻るかということ、テレワークの関係等、戻らない要因があり、戻ったとしても1割減くらいになるのではと考えている。

会長：こういったことは見直しの重要な基準になるためどうしても数値の変動は関心が高くなる。当日の状況が影響するということは承知した。いずれにせよ大きく変動するとそれが良い意味で上がっているのであれば良いが、違う意味で下がっているのであれば何か要因があるのかを考えてたいと思い質問させてもらった。

(2) 公共交通事業者に対する支援について

[事務局から資料2により報告]

[質疑応答]

各委員：昨年度も今年度も公共交通に対して多大なる支援をいただき誠に感謝する。

当社に限って申し上げると、かなり収支も悪化している中でなんとか継続して運行していける体力を維持できるのはこうした支援のおかげである。大変ありがたく思っている。365日動く路線バスというのはかなり体力が必要な仕事である。何かあればまたよろしくをお願いしたい。

会長：令和2年度と比較すると今年度は20万円から50万円に上がっている。今は厳しい環境にあるので、そういった支援ができるのは良いことであるが、ここだけ数字が変わったのは何か思いがあってのことか。説明いただけるとありがたい。

事務局：前回よりも手厚い支援としている。新型コロナウイルス感染症の蔓延が長期化する中で公共交通事業者は大変厳しい経営状況が続いている。路線バスや航路に関わる補助は10月～9月の事業期間で補助している。前回の支援時はコロナの影響が半年程度であったものが今回は丸々1年間となった。こういった状況があり、「50万円」の根拠は無いが、ある程度前回よりも手厚い支援をしたいということである。航路の補助についても、前は尾道市と寄港割合によって按分して補助をしていた。今回は尾道市がされないということで前回よりも増額している。タクシー事業者については金額は5万円ということで変わりはないが、支援をする。

3. 協議事項

(1) 大和・世羅線の実証運行内容の一部変更について

[事務局から資料3により報告]

[質疑応答]

各委員：確認であるが、3ページに見直しの変更案のダイヤがあるが、運行曜日について触れてないのは、現在の月曜日・水曜日・金曜日から変更をしないということか。変更しなのであれば、実績を見ると水曜日が少ないと思うがこの曜日の変更は必要なのか。

また運賃について。ふれあいタクシーとの乗り継ぎの際の、お金の適用の仕方、乗り継ぎの確認はどのようにするのか。大和世羅線から乗り継ぐ場合はある程度確

認できるかと思うが、先にふれあいタクシーに乗った場合はどのように確認するのか教えて欲しい。

事務局：水曜日の利用が極端に少ないこともあり、協議の中でも水曜日の運行を取りやめる話が出たが、今は実証運行ということで試験的に続けていくことになった。運行日に関しては月・水・金の週3日で継続する。

乗り継ぎについて。大和世羅線の運転手がふれあいタクシーに乗り継ぐ方がいらっしゃるということをふれあいタクシーの事務局に連絡してもらっている。ふれあいタクシーから大和世羅線に乗り継ぐ場合の方法は変更開始までに今後決めていきたい。

各委員：アンケート（3）の今後の取組について。「住民に変更内容を周知」とあるが、それはこれまでと同じ周知方法なのか。あまり利用が多くないということは住民に認知されているのかが気になった。

事務局：周知は、開始前には町内放送で周知を行った。開始後利用が増えない中、周知ができていないということで12月に全戸配布を行った。それにより10月は10人、11月6人という状況だったものが12月は22人と一気に増えた。全戸配布の効果かと思われたが、また1月は12人、2月は5人と利用が減った。全戸配布により周知は出来ているかと思う。今回の変更については町内観覧、町内放送、車内掲示で周知したい。

会 長：私からも2点。今の説明にあったように12月は22人と多い。これはやはり配布をしたという要因が大きいのか。それで知ったということであれば1月と2月ももっと多くても良いかと思う。むしろ、コロナが広がって病院に行きたくなかったという要因もあるのか。そこが気になっている。もう1点は、どういう曜日が良いのか。先程水曜日は今後検証していきたいということであったが、住民にアンケートや状況を確認することは考えないのか。人数がこれだけ変動していることに関して住民や利用者の声を集めることは検討されないのか。

事務局：現在の月、水、金の設定は、大和ふれあいタクシーの運行曜日に合わせたものである。大和支所が乗り場となっており、そこから乗り継いでもらうという考えで運行している。火曜日と木曜日は大和ふれあいタクシーの運行が無いので大和支所まで来られないという方がほとんどであろう。今利用者にアンケートを採っているが、その中で「時間が早い」等の意見があったので今回ダイヤの変更とした。また、全体へのアンケートは現在考えていないが、より多くの方の意見を聞きながら運行内容に反映していきたい。

会 長：やはり利用していない方に聞いて利用しやすいものを作っていくことは重要かと思う。利用者へのアンケートと同時に利用していない方の声を何らかの形で集める機会を作っていただければありがたい。

（2）令和4年度三原市地域公共交通活性化協議会 歳入歳出予算（案）について

〔事務局から資料4により報告〕

〔質疑応答〕

会 長：ご意見・ご質問はないか。無いようであれば（1）大和・世羅線の実証運行内容の一部変更について、（2）令和4年度三原市地域公共交通活性化協議会 歳入歳出予算（案）については承認ということによろしいか。

ー 同：異議なし

5. その他

各委員：小学生と中学生の定期代について。今までは三原市交通局の出し方であったが、コロナの影響でこの春からは普通の割引率で発売する。2月に運輸支局に届け出をして春から実施することになった。

併せて、中国バスと鞆鉄道についても同様にされるということである。

6. 閉 会